

◆帆苺謙治委員 佐藤卓之委員の関連で少しだけお話をさせていただきます。

県の職員が市町村に応援に行っていると。新発田地域は被害が何もなかったと言うとおかしいのですが、一部被害は出ましたけれども、ほとんどない。新発田地域振興局から25名も市町村へ応援に行っているという話を聞きました。8割くらいの職員が応援に行っているのに、その割合に発注率が落ちていない。そうすると、非常に努力をしているなという思いがして、頭が下がります。人数が減っても、仕事をしている。災害で市町村へ応援に行っている人間も、非常に難儀していると思うのです。そこで、健康管理という面について、皆さんはどのように考えて、どのように対処していますか。

◎坂井武徳副部長(農地部) まず職員の超勤の状況からお話しさせていただきますと、市町村支援に出ているということで、かなり超勤が増えております。数字で申し上げますと、地域機関では、この4月から9月までの半年間で昨年の1年分の超勤をしている、昨年の倍の超勤をしているということでございます。当然、災害対応は最優先ということで、かなり無理をして、休日も返上で働いているということでございますけれども、御指摘のとおり健康面、肉体的な面、それから精神的な面も配慮していかなければいけないということで、長時間勤務した職員に対しては、健康相談を実施するとか、職場でも個々にお互いに職員の変調を気にかけるということで、健康には十分配慮しております。作業はまだまだきつくなりますけれども、今後ともそういう配慮を続けてまいりたいと考えてございます。

◆帆苺謙治委員 人間は健康がいちばんですから、それだけは幹部としてぜひ考えてもらいたい。先般、視察といいますか、現地へ行ってまいりましたけれども、冗談交じりに、幹部の皆さんは一生懸命やっている人に生ビール一杯もおごってやってくれというようなお願いもしてまいりました。

それから、佐藤卓之委員の質問の中で、仕事は市町村が主だと。そうすると、概算数量発注方式という考えですが、地域の建設業者が減っている中で、対応が可能なかどうか。その辺のことはどう考えていますか。それが可能なのでしょうか。

◎斎藤瑞穂技監(農地部) 今ほどお尋ねの件でございますけれども、まず災害対応が第一優先だということで、災害対応に当たるといふ申し出があった場合には、そちらのほうを優先させなさいというような通知を発出させていただきました。これは、通常の業務については、少しお休みをするということで、工事中止をかけるということになっております。

先ほどのお話の、概算数量発注方式につきましては、通常業務が若干遅れぎみということですので、とにかくその部分を回復するために、積算にあまり時間をかけないで、業者さんにお渡ししよう。そのうえで、測量設計作業も追っかけやっていると。準備期間の間にできるだけ追いつくような形で作業を進めたらどうだろうということで、業者の準備期間と設計の遅れの部分を重ねることで期間短縮を図りたいと考えております。

◆帆苧謙治委員 精算設計みたいなものなののでしょうか。それは当然だと思います。農地というのは生き物だから、なるべく来春に間に合わせなければいけないということが一つの大きな課題であります。それから、業者のほうからもほかの工事を休んでもらってでもやると。これも一つの大きな方法だと思います。プラスアルファとして、それで足りなければ近隣からお願いするとかという方法もあるので、その辺もお願いしたいと思っております。

もう1点だけ、今、本当に農地の災害、特に中山間地域といったところでは、非常に仕事がやりにくい。はっきり言って仮設工事がいっぱいある。そういうことを私たちも業者から聞いていますが、仮設費を本当に見ているのか、見ていないのか。見てはいるのだろうけれども、追いつかないと。こういう話があることは、皆さん、多少は分かっていると思います。歩掛かりがあるにしても、人件費が他県と比べると低いということで利益率が上がらない。逆に、そういう中山間地域の工事は遠慮したいというような思いもあるやに聞きます。だけれども、自分の地域なのだから、自分がやらなければならないだろうというようなことで、ボランティア的にやっている面もあるやに聞いております。仮設費の面で、皆さんはどのような対応をしているのですか。やはり100円の仕事をしたら98円くらいでできるようにしてやらないと。100円の仕事が110円かかったのではどうにもなりませんので、その辺の考えをお聞きして終わります。

◎斎藤瑞穂技監(農地部) 私どもの工事発注につきましては、そういう仮設費、あるいは諸経費の部分については率計上ということで、実際にこういうものを造ったときにどのくらいの諸経費がかかるのだということで、標準的に算定をしていると。今、委員から御指摘いただきました仮設費につきましては、全国のものでは量りきれない、非常に難しい部分が多分あるのだと思います。そして、仮設費の計上については、できるだけ現場に合った形での積み上げをということで考えているのですけれども、まだ幾らかそういう地域があるのかなと、そういう話も若干は聞いたことがございます。

今後、今、お話ししたように、中山間地域での仕事はなかなか大変だと思うのですが、そういう中で、これからの災害復旧工事の発注については、より適切にと。これは、国庫補助であれば国から認めていただくということなので、その部分については仮設費も含めて適切に計上して、査定に向かってまいりたいと思っております。